

2 保護者と繋がる

ヒマワリを栽培しよう～「ひまわり日記」～ 4歳児

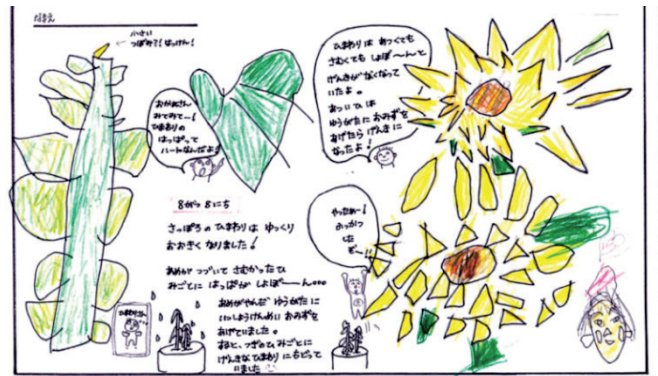
学校法人横山学園 新屋幼稚園

4歳児の子どもたちが5歳児から引き継いだ種でヒマワリを育てた。家庭では、環境の変化などから花や野菜を育てる体験が少なくなっていると考えた。そこで、保護者や子どもたちに園が橋渡しをして、自然現象と関わることが潤いのある生活づくりにも繋がっていくということに気付けるような機会をもちたいと考えた。夏休みに入るとヒマワリを見ることができないことから、種と「ひまわり日記」を持って帰ることにした。(関連事例P.11)

親子で夏休みに作ったひまわり日記



(担任のコメント) 芽が出て花が咲くまで待ち遠しかったね。花が咲いた時にはうれしかったでしょうね。



(担任のコメント) 札幌のおじいちゃんのお家まで種を持って行って植えてみたんだね。すごーい。お日様の具合でヒマワリも元気だったり、元気が無くなったりしたんだね。水やりよくがんばったね。

友達と共有する

- ・「ひまわり日記」から、いろいろな発見や驚き、疑問が出てきて、「やってみたい」という声が聞かれた。
- ・友達のいろいろな意見や感想を聞く中で、自分なりの思いや疑問を友達と伝え合った。
「種って本当においしいの？」
「花の色はみんな黄色？」
「大きいのはどのくらいあるだろう」
「花びらの数は？」
「種のは数は？」など
色・大きさ・数・味などいろいろな試したいことや知りたいことが出てきた。



- ・一番大きいヒマワリの高さを測った。
- ・茎の中に興味をもち、たくさんちぎることに夢中になり、ままごとのごはんにして遊んだ。
- ・一つの花に種がいくつ入っていたか、友達と協力して数えた。
- ・種取りでは、取る大変さ、感触、集まった種の重さなど仲間と一緒に共有できた。
- ・その後種を味わい、表現活動にも取り組んだ。



<考察> 子どもたちが保護者とヒマワリを育て、生長を観察したことで、細かい変化に気付いたり、実際に触れたりする感動体験が共有できた。また、この経験から2学期に幼稚園でも一つ一つのヒマワリの違いを発見し喜んでいた。

日記からはうまく育たなかった例も見られた。自然現象との関係や生き物を大切にするなど、自分たちの暮らし方を考えたり、感じたりすることができたのではないかと考える。「暑い夏は水を多くやらないと枯れる」「風の強い時には、植木鉢を家の中に入れる」など、自然現象との関係を僅かながらでも体験できたのではないかとと思われる。

子どもの興味に保育者と保護者が寄り添うことで、ヒマワリの生長・変化を感じ取りながら、種から種への一環を経験することができ、子どもたちの興味が一層深まりました。「ひまわり日記」を作ることをきっかけとして、友達との情報交換に繋がりました。さらには、そこから茎への興味、種の大きさ・重さ・形・味などへの探求など「科学する心」の育ちに繋がることが期待できます。